

○ウスイロアヤメ (津山 尙) Takasi TUYAMA: A pale-colored *Iris nertchinskia*.

1951年6月3日風間智恵子氏と小生とで武州箱根ヶ崎町の某氏の庭内で栽培されていた非常に花色の薄い変種を発見し、これにウスイロアヤメの名をつけておいた。(お茶の水女子大学自然科学報告 2: 115, 1951) 花色は極く薄い帯紅紫色又は極く薄いライラック色或は mauve 色で(興林会: 標準色鑑によると白紫赤——紫平色又は白赤——紫平色)、小生に輕羅の色はこんなものではなかつたかと連想させる。少し離れて見れば白と見誤る人もあろう位である。外花蓋片の基部のアヤメに特有な縞紋様は黄を主としてこれに僅かに淡紫が認められる程度である。アヤメの花には株によつて紫の濃淡の変化が多いが、この品は遙かにその圏外に出たものである。外花蓋片の基部は上方に凹面をなし周囲がすこし縮む傾向がある。これはシロアヤメにより明かに出現する性質である。シロアヤメは單に花の色が異なるのみではないのでアヤメの品種にしてしまう必要はないと思う。ウスイロアヤメも同様にアヤメの変種としておきたい。このものはアヤメとシロアヤメとの交配によつて出現したものではないかと思われる。しかしこの両者が屢々混植されているのにも関らず、今日までウスイロアヤメが発見されなかつた所を見ると非常に特殊な交雜の結果なのかも知れない。シロアヤメはその純白さのため Snow Queen の名で世界の園芸界でもてはやされているが、アヤメに近い歐洲産の別種 *I. sibirica* には純白のものはなく Dykes 氏によれば “more or less tinged or flushed with faint lilac or blue” (“The Garden” Jul. 18, 1925) であり、ウスイロアヤメに似た色をもっている。氏によればシロアヤメはメンデル劣性であるが、それは完全でないとしているらしい。氏は次の言葉を残しているが、

“Snow Queen, the albino form of *I. orientalis* (アヤメを指す), breeds true to the white colour, and is recessive for the colour factor. If the type and the albino form be crossfertilised, some very beautiful forms of a bright sky-blue colour can be obtained, of a shade that I have not seen elsewhere among irises” (“The Garden” Nov. 9. 1912).

この文章は可能性を示唆したものと見えるし、氏のこれに関する他の文献中の文章も同様に不明確であるので、ウスイロアヤメが歐洲で交雜の結果作出されたとの確証はない。

Iris nertchinskia Loddiges, Bot. Cabin. 19: t. 1843 (1832-33)

var. **pallidiflora** Tuyama, var. nov.

Flores pallidissime rosaceo-lilacini (Ridgway: Color Standards and Nomenclature—lavender-violet—pale-mauve). Vexillum leviter concavum ut in var. *albiflora* Makino.

Prov. Musashi, Hakonegasaki, in horto culta (T. Tuyama et C. Kazama, 15, Mai. 1953, in Tokyo culta—Spec. typic. in Herb. Nation. Sci. Mus., Tokyo).